（第3種郵便物認可）　2012年（平成24年）10月12日（金曜日）　讀賣新聞

白洲次郎の別荘内部写真

静岡の男性が寄贈

NPO「復元へ貴重な資料」

左山荘1階にあったホームバーが写った写真 右ソファでたばこをくわえながらくつろぐ白洲が撮影された写真（矢口さん提供）

戦後日本の独立と復興に尽力した白洲次郎（1902～85年）が山形市の蔵王温泉に建てた別荘「ヒュッテ・ヤレン」の内部を撮影した複数の写真が、静岡県の男性宅に残っていたことがわかり、別荘の保存活動に取り組むNPO法人「元気・まちネット」（東京都）に寄贈された。内部が写った写真はなかったといい、現在は改装されてしまった1階ホームバーが写った貴重なものもあった。同NPOの矢口正武代表(65)は「当時の山荘を再現するための貴重な資料」と話している。

写真は、静岡県の50歳代男性が所有。男性の父親は白洲のスキー仲間で、別荘と思われる写真を持っていたが、場所がよくわからなかったという。今年5月、新聞で同NPOの活動を知った男性が約50枚の写真を矢口さんに提供し、うち約20枚が白洲が将棋をしている写真など、別荘の内部が写ったものだった。

特に貴重なものは、白洲の姿はないが、カウンターの向こうに酒瓶が並ぶ1階ホームバーの写真。山荘は57年に白洲が建設した後、所有者が転々とするうちに1階は寝室に改装され、現在の山荘1階に当時の面影はない。そのほか、たばこをくわえてソファでくつろいだり、スキーのために蔵王山頂に向かったりする白洲の姿が収められた写真もあった。

山荘は老朽化が目立つようになり、地震や積雪への対策も必要といい、矢口さんらは山荘を保存し、将来的には一般に開放して観光や地域振興に生かそうと募金活動を行っている。矢口さんは「写真を通じて当時の山荘の様子を感じてもらい、復元に向けて弾みをつけたい」と話している。

◇

同NPOは、今月20日に山形市総合福祉センターで開くシンポジウム（一般1000円）と、21日に山荘周辺で行う散策会（同）の参加者を募集。シンポジウムではこれらの写真を通じて当時の山荘の様子が紹介される。15日締め切り。申し込みは、「旧白洲次郎山荘（ヒュッテ・ヤレン）保存・活用の会」ホームページ（http://www.genki-machinet.com/contents/ZaoProjectMJ/index.html）から。

読売新聞（山形版）
20121012に掲載